

中学校で「和楽器」の授業スタート

はなづか太鼓メンバーが太鼓を指導



▲太鼓を教わる生たち

みんな
の
ひろば

ここはみなさんが主役の
ひろばです。

身近な話題をどんどんお
寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613

1月27日、飯館中の音楽の授業で、生徒らが和太鼓を学びました。

これは、昨年4月からの新学習指導要領で和楽器の授業が取り入れられたことによるものです。

この日の1年生の授業では、はなづか太鼓の方が構え方やばちの持ち方、太鼓の叩き方等を指導、ほとんどが初めてとあって初めは恐る恐る太鼓を叩いていた生徒たちも、次第に持ち前のリズム感を発揮し、軽快に太鼓を叩いていました。

この授業は2月14日までに各クラス2回ずつ行なわれる予定で、この期間講師を務めることについて、はなづか太鼓の志賀清一さんは「長期間なので、仕事の都合等で正直大変。でも生徒達に太鼓を教えるという得難い機会に恵まれた。終了までぜひ1曲叩けるようにがんばって指導したい」と意気込みを語っていました。

こころのぽけっと

もつと

参加しないと

「もつとしない」

今年も飯館村ならではの新年会「新春村民のつどい」が開かれました。なぜ飯館村ならではの？ 当日会場に来た方は一目瞭然です。

小中学生の参加あり、各界各層の参画や手伝いあり、そして食材あります。さらに10大ニュースの発表やクオリティライフ顕彰など、その内容たるや全国でも屈指の「質の高さ」と自慢しても良いでしょう。特に今年はその感じがしました。

というのは、1つはクオリティライフ顕彰事業の賞品が会場の皆さんにはつきりわかったこと。この賞の賞品は、全員違っているのがこの賞の隠れたすばらしさなのです。一人ひとり違っている。それをできるだけ大切に、認めていく社会にしたいことが「オンリーワン

の村づくり」の基本と私は思っているからです。

もう1つは「もつとしない」の発表でした。村の第5次総合振興計画の実践理論となる「もつとしない」を題に、5人に考えを述べていただきました。いずれもすばらしく、計画づくりのヒント

になり、さらに「スロートライフ」の考え方を、会場の方になんか理解してもらったのではと思ったからです。

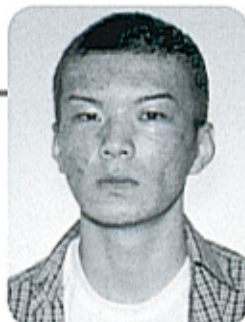
今、ある町では「ホラ吹き大会」でマスコミの話題になっています。わが村はすでに17年前にホラ吹き大会をスタートさせ4年も前に卒業し、今はさらに高いレベルの「つどい」になっているんだなと実感し、誇りに思いました。

私にとって、胸に染み入る「うれしさ3倍」の新年会でした。

平成15年1月28日

飯館村長 菅野 典雄

20の
リレー



菊池 賢さん
福島市在住
(草野出身)

◆成人式を 終えての心境

成人式に出席したところ、唐突に与えられたこの課題。はて、困ったな。私は文章を書くのが大の苦手だ。何を書いていいものやらわからない。冗談混じりで同じく成人式に出席していたS君にこれを押しつけてみたが、直ちに突き返されてしまった。やむを得ないので私は今「成人式を終えて」の心境を述べようと思う。

二十歳になれば成人、

つまり大人というが、私は全く大人になれたという気はしない。果して今回成人式に出席した人の何人が「自分は大人だ」と自身を持って言えるだろうか。

そもそも大人と子供を分ける要因は何なのだろうか。かなり以前のことだが、ある先生(40歳ぐらい)に「先生が大人になったと思ったのはいつですか」と聞いたことがある。その先生は「まだそう思ったことはない」と答えられた。私は今になってその言葉に共感できるものがあると感じる。大人としての自身が持てない。周りの人が大人に見え羨ましい。しかし、その周りの人もまた、同じ感情を抱いているのかもしれないと今は思えるのだ。完璧な人間を大人とするならそんな人はいない。いずれにせよ私にとって「大人」とは憧れなのだ。



▲ミニディサービスのみなさん

老人クラブ輪投げ大会

村内高齢者が輪投げで楽しく交流

第1回村老人クラブ連合会輪投げ大会は1月27日、村公民館で行われ、各地区から会員120人が参加して輪投げの腕を競い合いました。

この大会は今回が始めてで、相馬郡老老連の輪投げ大会の予選会も兼ねて行われました。

大会では老人クラブ毎に5人編成のチームをつくり、一人が9本の輪を3回投げ、その合計得点で優勝を争いました。競技が始まると、選手

「だんご」の寄付ありがとう

1月、飯樋4行政区によるミニディサービスで作られた小正月の行事「だんごさし」で作られ

た飾り物が役場庁舎の階段に飾られ、役場を訪れる人の目を楽しませてくれました。

この飾りは、紅白のだんごが水木にさされ、他にも折り紙で作った手作りのマスコットなどが飾られ、とても賑やかかつくりになっていました。

役場を訪れた人達は、正月の雰囲気あふれる鮮やかなだんごを懐かしそうに見ていました。

▲輪投げ大会のようす

